

# 一般国道236号(帯広・広尾自動車道) 大樹広尾道路(豊似～広尾)に係る新規事業採択時評価

- ・現道課題箇所を回避し、災害時においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを形成
- ・重要港湾十勝港とのアクセス向上により全国の食を支える地域産業を支援
- ・高次医療施設へのアクセス向上により、救命救急医療活動を支援

## 1. 事業概要

- ・起 終 点: 北海道広尾郡広尾町字紋別  
～北海道広尾郡広尾町字ラッコベツ
- ・延 長 等: 12.3km(第1種第3級、2車線、設計速度80km/h)
- ・全体事業費: 約480億円
- ・計画交通量: 約4,100台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物
約2,500台/日	約700台/日	約900台/日

## 2. 課題

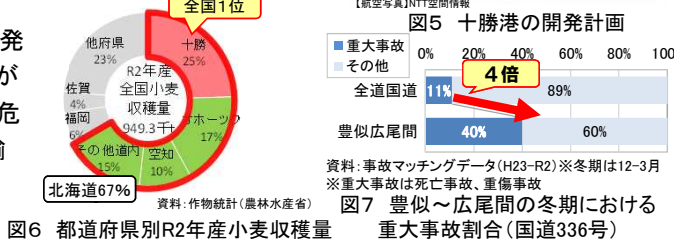
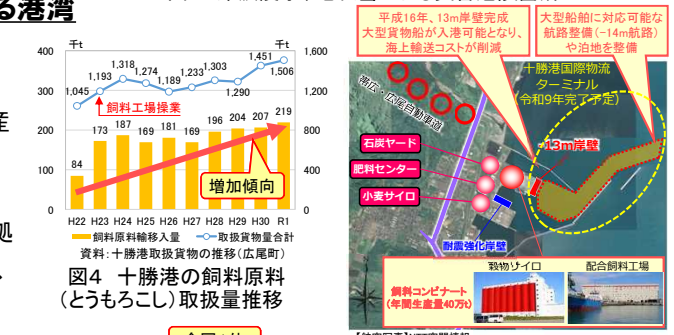
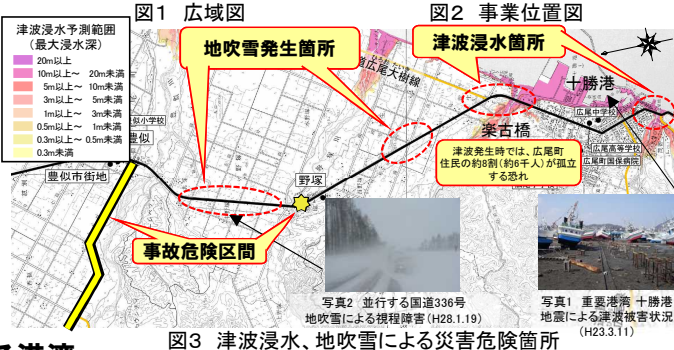
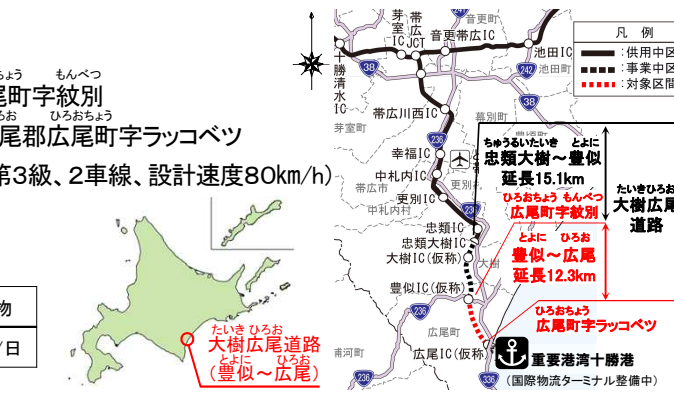
### ①災害に対して脆弱な道路ネットワーク

・現道の国道336号は津波浸水予測範囲を通過するため、大規模災害発生時の広尾町の孤立が課題。(図3、写真1)

### ②全国への食料供給を支える港湾アクセスの効率性・安全性

・十勝港は十勝圏で生産される小麦など全国生産量1位の農産品等の出荷や飼料原料の輸入などを担っていることから、全国の食料供給を支える重要拠点であり、十勝港の開発により、取扱貨物量が増加傾向。(図4、5、6)

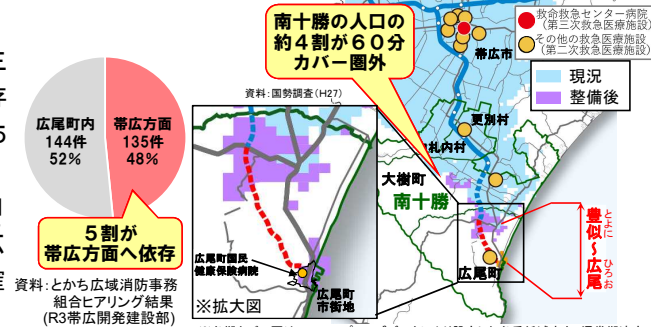
・現道の国道336号では地吹雪発生箇所で大規模事故の発生割合が高く、また線形不良区間で事故危険箇所が存在する等、安全な輸送ルートの確保が急務。(図3、7、写真2)



### ③高次医療施設へのアクセス

・十勝圏の高次医療は管内唯一の第三次救急医療施設がある帯広市へ依存しており、広尾町の救急搬送先は約5割が帯広方面。(図8)

・広尾町をはじめとする南十勝の人口の約4割が冬期には60分以内に帯広市へ到達できない状況で、速達性の確保が急務。(図9)



## 3. 整備効果

### 効果1 災害時の信頼性の高い道路ネットワークの構築【◎】

・大樹広尾道路の整備により緊急時の道路の多重性が確保され、大規模災害発生時の広尾町の孤立を回避するなど、信頼性の高い道路ネットワークを構築。

〔大規模災害発生時の孤立人口(津波浸水)【現況】約6,000人 ⇒ 【整備後】約200人〕

### 効果2 全国への食料供給を支える物流の効率性・安全性の向上【◎】

・地吹雪発生箇所や事故危険区間を回避し、効率性や安全性の高い物流ネットワークを形成することで、全国の食料供給を支える十勝・オホーツク圏の地域産業を支援。(図10)

〔地吹雪発生箇所【現況】2箇所通過 ⇒ 【整備後】0箇所通過〕

〔事故危険区間【現況】2箇所通過 ⇒ 【整備後】0箇所通過〕

### 効果3 高次医療施設への速達性向上【◎】

・大樹広尾道路の整備により速達性が向上し、帯広市内の高次医療施設60分カバー圏が拡大し、救急医療を支援。

〔帯広市内の高次医療施設冬期60分カバー圏人口(南十勝)【現況】約12,700人(64%) ⇒ 【整備後】約17,600人(89%)〕

資料: 国勢調査(H27)

### 費用便益分析結果 (貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

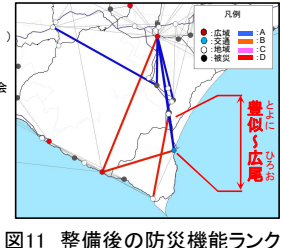
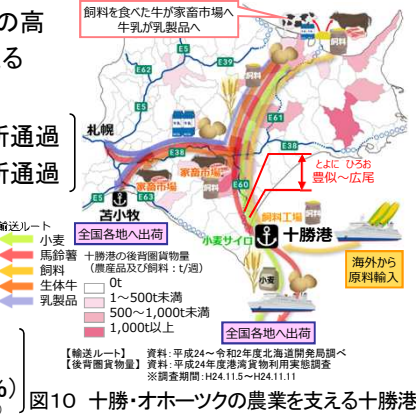
B/C	EIRR <sup>※1</sup>	総費用	総便益
1.2 (0.7)	5.2% (2.0%)	2,641億円 <sup>※2</sup> (352億円 <sup>※2</sup> )	3,200億円 <sup>※2</sup> (245億円 <sup>※2</sup> )

注) 上段の値は帯広川西IC～広尾IC(仮称)を対象とした場合、下段( )の値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果  
 ※1: EIRR: 経済的内部収益率  
 ※2: 基準年(R3年)における現在価値記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

### 道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度(防災機能ランク)		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
10 (5)	0.60[C] (1.00[D])	0.30[B] (0.40[C])	▲29.53 (▲29.53)	0.05 (0.04)	0.32 (0.60)	◎

注) 上段の値は帯広川西IC～広尾IC(仮称)を対象とした場合、下段( )の値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果





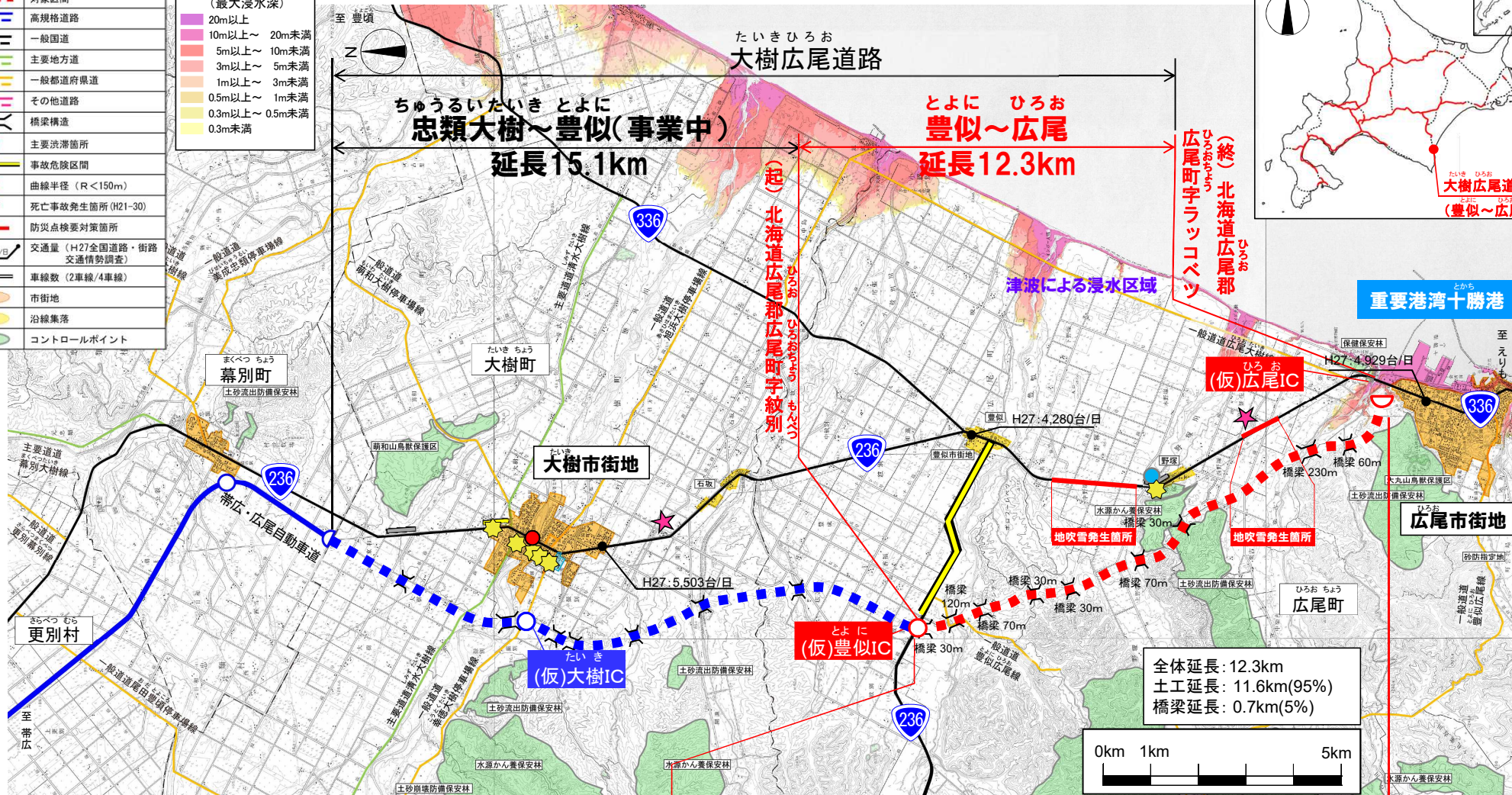
# 一般国道236号(帯広・広尾自動車道) 大樹広尾道路(豊似～広尾)に係る新規事業採択時評価

凡例

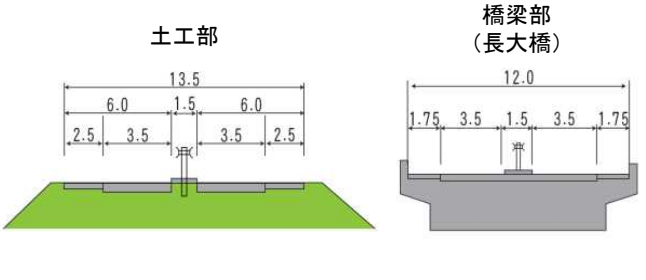
	対象区間
	高規格道路
	一般国道
	主要地方道
	一般都道府県道
	その他道路
	橋梁構造
	主要渋滞箇所
	事故危険区間
	曲線半径 (R<150m)
	死亡事故発生箇所 (H21-30)
	防災点検要対策箇所
	交通量 (H27全国道路・街路交通情勢調査)
	車線数 (2車線/4車線)
	市街地
	沿線集落
	コントロールポイント

津波浸水予測範囲 (最大浸水深)

	20m以上
	10m以上～20m未満
	5m以上～10m未満
	3m以上～5m未満
	1m以上～3m未満
	0.5m以上～1m未満
	0.3m以上～0.5m未満
	0.3m未満



【標準横断図】 (単位:m)



【縦断図】

